

29 いろいろ言っても始まらない！「実感」、そして「納得」があれば変わるのだ？！

堂本 彰夫

(1) 危惧される委縮・反動（自己防衛？）?! 予想は出来たが、それでは、何も生まない、変わらない?!

先号(28)では、学校教育側の苦悩(教採試験の悲喜劇?)を見たが、一方の社会教育側の苦悩(施設管理・運営のそれ!特にスタッフ不足)も大きい!例えば、先日、知人(青少年教育施設指定管理者)から聞いた話であるが、過日の何かの会合の席上で、学校関係者(どこかの校長?)が、かの「働き方改革」の一環として、学校(教師達)の、地域との連携事業・活動を、基本的に止める方針であるという言質を聞いたそうである!もちろん、時間外(休日等)や教育課程以外のものについては、それでよいのであるが(これまでも、基本的にはそうであったはずである?)、絶対に必要な(有効・有益な)連携事業や活動までもが、それによって縮小ないしは消滅させられるのであれば、誠に残念であるし、そもそもいかなるものかとも思う!学校(教師達)にとっては、それが、ある種の「自己防衛的なスタンス」と言えるのであろうが、ある意味時代に逆行する(反動?)、そして、本末転倒な動きなのではないだろうかとも思う(繰り返すが、気持ちは分かるし、目先の対応としては、それが一番現実的であるようには思う!だから、容易に予想もされた?)?!

と言うのも、現在の学校(教師達)の窮状(いじめや不登校、あるいはかのクレーマー対応→教員達の病休、引いては退職、そして志願者の激減へ)は、直接は、その地域との連携事業や活動が元凶ではないはずなのに、まるでそれが、真犯人のような受け止め方で、事が対処されているとも言えるからである?!少なくとも、余計な負担を、これ以上かけたくないということかもしれないが、窮状の根本原因に目を瞑り(ある意味投げ?)、表面的にはよく分かる(自他の納得にもつながる?)解決(弥縫?)策に、それがなってしまうのではないかということである!苦渋の選択とは言え、これからの「教育協働」の意義と可能性を提唱してきている私にとってみれば、誠に複雑な心境となるということである!

ちなみに、この学校関係者(校長?)は、地域との連携事業や活動の意義や可能性について、個人的にはどのように受け止めているのであろうか?組織全体の方針として(上からの指示も含めて?)、やむを得ず(断腸の思いで?)、そのような言質(スタンス)を取っているのであろうか?否、そうではなくて、従前から、そうした事業や活動には、あまり興味・関心はなく、あくまでも、学校(教師達)には、学校独自の役割やスタンスがあるのであり(学校教育の独自性)、その実現に向かって邁進すべきだと思っているのであろうか(例えば、「教室での授業がすべて!」「地域連携とかは、必要最小限でいい!」とか)?私としては、近年の施策状況等から(コミュニティスクールや地域学校協働本部事業等の浸透?)、本人自身は、そうした事業や活動は、意義や可能性があるとは思ってはいるが、目の前の窮状(教師達の多忙や疲弊状況等)を見れば、少なくとも今は、そうした判断をせざるを得ない!そのように思っていることだと信じたいが、実際はどうなのか?

(2) 学校(教師達)よ!周囲には、理解者、協力者が一杯いるのだよ?!

いずれにしても、こうした動き(委縮・反動?)は、例の「働き方改革」という大きな社会的流れの中では、ある意味当然の帰結のようにも思えるが、これまた当然?、それでは、何も生まない、変わらない?!そういうことでもある?!何故なら、そこに、根本的な解決要因が組み込まれていないからである!ただ単に、超過勤務時間(時間外労働)を減らす、無くそうということであるからである(他方で、例の「教職手当」の一律値上げもある!)?!労働法的な対応(改善?)という点では、一定の評価は出来ようが、実際は、皮肉にも、「働かせ放題」を助長するもので、教職員にとっては、何のメリットもないというような、ある意味不思議な(他の人達にとっては、誠に贅沢な?)反応が生まれてもいるわけである!

そんな中、一方で、こんな機会に出くわすことが出来た!先日のことであるが、私が、一応は相談役として関わっている県立T青少年の家のスタッフと、最近、再び縁が深まってきた?N市H公民館のスタッフとの合同懇親会(飲み会?)があった!総勢20人以上の顔ぶれであったが、通常は、ほとんど関係がない(片や県立の青少年教育施設、片や市の公立公民館の一つ!)老若男女(「老」は、私だけだった?否、少し若い?現役小学校教師/非常勤?もいた!とても面白いキャリア、そしてキャラの人でもあった!)が、N市内の飲み屋(少し手狭ではあったが、雰囲気もよく、料理も美味しかった!)を借り切って、一堂に会した次第である!

ちなみに、上記公民館は、現在「児童館」の指定管理も受けており、そのスタッフも参加していた!最近では、新型コロナウイルスの影響等で、こうした飲み会の機会はなかったのかもしれないが、これほどの顔触れが揃ったことに、驚き(否、感動かな?)を禁じ得なかった!とても、嫌々ながらの参加とは思えず、こんな関係/雰囲気、日常の業務・活動を行い合っているのだなあ、思ったということである!まさに、私にしてみれば、「歴史的な光景」と言えるものであった!私が知らないだけで、「いるところには、いるのである!」、

否、ただ「いる」ということではなく、「集まっている」のでもある！もちろん、核としては、「公民館」があり、「青少年の家」があるのであるが（残念ながら、後者の方は、これからだという感が強いが！）、そこに集まっている人達の「思い」が、心地よく「共有」されているということである？！

要は、私がここで言いたい（分かって欲しい？）ことは、「学校（教師達）よ！地域には、こういう人達、こういう思いを持った人達が（実際は、「も」かな？）いるのだよ！こういう人達とつながって、改めて頑張ろうよ！」ということである！余計なことであるが、もちろん、こうした考え方（言い方）は、前述の学校（教師達）の思いとスタンスとは、相当違うもので、しかも、現今では、まったくの禁忌となっている「頑張ろう！」というメッセージも入っている！学校関係者に言わせれば、何と言う「無理解（時代逆行？）者なのか！」と言われそうであるが、私は、今改めて、こう主張したいのである！「あなた達の窮状の根本的原因を追究し、一緒に協力して、その解決策を見付けましょうよ！」、そういうことである！

ただ、そうは言っても、現実的には（当初は？）、今の窮状は、すぐには是正できないし、だから、それにかかる労力も、ある意味もったいない！言い換えれば、自分の生活を守るだけで精一杯！それしかないのだ！etc. そんな心情（批判の声？）もある（出てくる）のは、よく分かるが、「（子ども達の）教育に携わっているのは、あなた達、学校関係者だけではないのですよ！それは、親や地域の人達ということであるが（もちろん行政も含むが！）、今、改めて、彼（彼女）らは、こんな思い、動きを創り出そうとしているのですよ！」、そういうことを身近に感じさせる（垣間見せてくれる）人達がいるということである！

(3) 「地域学校協働本部事業」や「コミュニティスクール」の取り組みは、まさに絶好の機会なのである？！

ということで、ここでは、これが本論ということにもなるが、そういう人達は、時間やお金に余裕のある人達だとか、ある意味お節介好きの人達であるとか、そういった受け止め方があるであろうが（実際に、そういう人達もいるにはいるが？）、そういうことと、ここでの連携・協力の意義や成果とは、まったく別の次元の話である（これは断言できる！）？！そういう意味では、ここで何度も提唱してきた「地域学校協働本部事業」や「コミュニティスクール」の取り組みは、まさに絶好の機会なのである！その理由については、ここでは繰り返さないが、問題は、その中身であり、そこに創り上げられているしくみのあり方である！形の上では（名前だけは？）、そうした動きやしくみを創ったとしても、それが生み出している成果や意義が、ほとんどなかったり、あるいは自覚されていなかったりすれば、それこそ、それは、厄介な代物であり、出来れば早々に解除してもらいたいと思っている人達には、絶好の口実？ともなるということである？！

でも、そうではない取り組み、新たな可能性（形）を創り出しているところ、人物もいるのである！その典型的なところが、今回、改めて紹介しているN市H公民館であり、その職員であるHさんという女性であるわけである！ここでは、その取り組みについて、もう少し具体的に述べてみたい！絶対に参考になるし、ある意味では、感動的でさえある？！早速、その紹介であるが、Hさんは、近場の小学校に、数年前から、半ば「押しかけ（お節介？）」的に出向き（1. 5日常駐自称出前公民館？）、それをきっかけにして、当該の教員達と一緒に授業づくり等を行ってきた！そして、最近では、他ならぬ教員達からの積極的なアプローチが増え、いわゆる「迷惑感」や「負担感」等は、最早吹っ飛んでいるということであった！

実は、今最も貴重なのは、このような光景（実績）であり、こうしたこと生まれなければ、どんなに立派な（そしてカネをかけた）施策であっても、現場は変わらない（動かない）のである！要は、そこに、やってよかったという「実感」と「納得」があるかどうかなのである！ちなみに、N市では、現在、例のコミュニティスクールや地域学校協働本部事業の本格導入に向けて（小中連携の動きも絡めて？）動き始めているそうであるが（かなり遅れてのスタートとは言えるが？）、そのシステムづくりで、少々？苦勞されているということである！私からみると、かの「まちづくり協議会」（各小学校区に設置！ただし、所管が市長部局にあり、協働の動きづくりが難しいようではある？）もあり、まさしく「学校と地域社会の連携・協力体制」づくりは、すごく簡単なようにも見えるが、ただ、それだけに、それぞれの関係機関、関係者の思い、将来ヴィジョン（思惑？）が、ある意味「同床異夢」なのであろう？

とは言え、今改めて重要なのは、そうしたバラバラな状態、出来たら、もうこれ以上のことはやりたくないといったような事態を、何とか突破できる回路や、新たな想いとエネルギーを有した人達の参画と協力である！そして、何よりも求められるのは、他ならぬ学校の教職員の多忙感や憔悴感を払拭させる取り組みと人のネットワークである！最早、明らかであろう！そのお手伝い、あるいはトータルなコーディネートが期待できるのが「公民館」であり、そこで働く有能な（と言うより、元気な！）職員の配置である！しかも、学校のコミュニティ施設内に、その「分室」を置き（N市には、名称は、それぞれ違うが、そうしたスペースがある！）、そこに、コーディネーターや公民館職員が滞在する（兼務発令も可）。その実績が、上記のHさん達の動きなのである！地道で、時間はかかるかもしれないが、今は、それが最も有効なのである？！（つづく）